

「モデルナ筋注」の遅発性皮膚反応(COVID arm)

「モデルナ筋注」の接種から約1週間後に「COVID arm」と呼ばれる遅発性皮膚反応がみられることがあります。「モデルナ筋注」の第3相臨床試験では、8日目以降に生じる遅発性皮膚反応が1回目接種後に全体の0.8%、2回目接種後に全体の0.2%にみられ、4~5日程度で改善したと報告されています¹⁾。わが国で行われている「新型コロナワクチンの投与開始初期の重点的調査」においても、モデルナ社のワクチンを接種した場合、約1週間後に発赤・かゆみが増えることが示されています²⁾。自然消退するために特別な治療法はありませんが、症状がひどい場合は対症療法として患部の冷却や抗ヒスタミン薬の投与、ステロイド外用剤を用いることもあります。なお、このアレルギー反応が生じた場合も、2回目のワクチン接種は可能です。



(J Am Acad Dermatol. 2021 Jul;85(1):46-55.)



(JAMA Dermatol. 2021 Jun 1;157(6):716-20.)

1) N Engl J Med. 2021 Feb 4;384(5):403-16.

2) 健康観察日誌集計の中間報告(9)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000802343.pdf>